令和 7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 絆

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	〒020-0861 岩手県盛岡市仙北三丁目14番41号		
自己評価作成日	令和7年11月1日	評価結果市町村受理日	令和8年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

古い一般の住宅を活かし、ゆったりとした環境で利用者様との家庭的な生活を営めるグループホームとなります。利用者様個別の生活を支援しながら、その人らしく生活が出来るように支援しています。また、研修等に力を入れて個々の職員の成長に繋げていきたいと努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は盛岡市仙北町駅から旧国道4号線を南に1キロ程進んだバイパス寄りの住宅が並ぶ一画に位置し、近くにコンビニ、ドラックストア、ケーキ屋等が並び、利用者が買い物に外出できる場になっている。民家を改修した事業所で、構造上の制約や不便さはあるものの、家庭的で暖かな雰囲気のある居間と台所が繋がり、季節毎に変化を感じられる和風の庭もあり、利用者は自分のペースでゆったりと生活できている。最後まで事業所での生活を希望する場合は看取りを行う方針を堅持している。食事は、職員が交代で献立や調理を担当し、利用者もできることに参加し、職員も含めて皆で食卓を囲み楽しい食事の時間となっている。コロナ禍以降、職員不足もあり、思うように外出や地域との交流ができなかったが、職員体制も整い、積極的に外に出ようとしていた矢先、8月に退職者が出てしまった。現在も補充できない状態にあるものの、食事、入浴等の介助支援の度合いが高まる中にあっても、管理者や運営会社（新潟市）の事務担当者（事業所に常駐）の先導を得て、利用者の生活の質が低下しないよう職員全員で協力しながら日々の支援に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 絆

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時、会議や研修、委員会活動を通して理解を深めている。	理念に掲げる「能力に応じて自分らしく自立した生活」を送れるよう一人ひとりの心身の状況に合わせたケアプランにより介護支援を行うとともに、全職員が身体拘束適正化、虐待防止、感染症対策、リスクマネジメント、ケア向上の各委員会の何れかに属し、理念を共有しながら担当分野の活動に当たっている。また、「職員会議」や「ケア会議」の中で、日常の利用者への関わりが理念の具体的実践に繋がったものになっているか、定期的に話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い出し時などで交流を取るようにしている。	コロナ以前の地域交流までには至っていないが、週1回、民生委員を始め地域のボランティアの皆さんにより実施されてる「スローショッピング」に利用者が順番に参加し、スーパーの買い物を楽しんでいる。また、今年は夏の風物詩「舟っこ流し」の飾り付けに利用者が参加した。事業所としては、町内会行事への参加や保育園勤務の利用者の家族を介して園児たちとの交流等、地域との繋がりを復活したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議時に町内会や地域の取り組みを聞き参加や貢献出来ることについて検討、実施を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営の報告や相談をしながら、透明性を高めサービス向上に努めている。	民生委員を除き、外部委員の町内会長や傾聴ボランティアの方は、本年度欠席が続いている。家族代表の方は、熱心に参加いただいている。運営状況の報告をもとに質疑や意見交換を行っている。民生委員を務める委員から地域の行事等の情報をいただき、おかげで「舟っこ流し」の飾りつけに参加できた。	地域の多様な団体（老人クラブ、消防団、駐在所、ボランティアグループ等）に働きかけ、メンバーを拡充することが期待されます。また、自治会長さんの出席が難しい場合は、代理の方に出席をお願いすることも必要かと考えます。

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 絆

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時に連絡、相談を行えている。	管理者と事務担当者」は、主として電話やメールで市の担当課とやり取りを行い、制度面での照会、相談等、円滑な関係を築いている。生活保護受給者が1名おり、担当ケースワーカーと連携して受給者に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会の設置、研修を行い身体拘束をしないケアを実践するように努めている。	緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束や行動制限を行わないこととし、職員全員で構成する「身体拘束適正化委員会」を3ヵ月毎に開催し、身体拘束に当たる行為の理解と共有に努め、担当者を決めて研修も行っている。職員の言動で気になることがある場合には、管理者がその都度注意している。現在、夜間の安全確保のため、1階2名、2階3名が離床センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	委員会の設置、研修を行い虐待が生まれないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護への理解を深める為、研修等の機会を作るように努めている。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

事業所名 ： グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	口頭での説明、文書等の配布を行い理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や直接来所された際、連絡時にお話を聞き反映出来るように努めている。	利用者から、足元が寒いとの声があり、エアコンを大きなものに変えたり、ひざ掛けを用意して対応している。運営推進会議の案内を全家族に出しており、毎回1家族は出席し、意見を出してくれる。毎月、居室担当者が、心身の状況や生活の様子を写真付きでお便りにして各家族に送っている。また、運営推進会議の報告も送付している。家族から運営に関する意見等は特に出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議を定期的に開催しながら、意見の反映が出来るように促している。	月1回の「職員会議」や「ケア会議」が職員から意見や提案をもらう機会となっている。管理者は、こちらから確認すれば自分の考えなどを話してくれるが、各職員がもっと積極的に意見等を出して欲しいと思っており、個人面談も行いたいとしている。最近では、職員から、利用者の介護度が高くなるに従い、食事介助に手を取られ、一緒に食卓を囲んで食事ができなくなってきているとの意見が出されており、管理者として、運営上の課題と受け止めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々に役割を持ってもらい一定の責任を与えながら、運営参加を促している。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

事業所名 ： グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修機会の確保、個別業務への取り組み、進捗を見極め個々の質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修時や、交流会の機会、他事業所の状況を聞きながら、質の向上につなげられるように努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居にあたっての事前面談やご家族からの聞き取りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学時の面談や入居前にお話を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族とのお話の中で必要な支援を検討し提案させていただくこともある。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 絆

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活を行う主体者としての利用者とそれを支える職員として関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状態や思いを中心として家族の思いや施設としての意見も提案しながらの関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの関係性がある方との交流はないが、入居後に馴染みの関係が出来るように努めている。	家族以外に面会や連絡がある利用者はいない。馴染みの場所や自宅周辺を巡ることは、車を保有しておらず難しい。事業所を訪れてくれる傾聴ボランティアの方や理髪師、時折、買い物に行くケーキ屋さん、訪問診療の医師等がお馴染みさんになっている。事業所として、職員も含め地域の皆さんと馴染みの関係を構築していきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	それぞれの個性や生活ペースを把握しながら、共同での生活が出来るように配慮しコミュニケーションを図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられての退居が多いが、ご家族にはいつでも来ていただくようにお声掛けをしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

事業所名 ： グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中から本人の思いを確認し本人中心の支援になるように努めている。	自分から思いや意向を伝えることができる利用者は一人のみで、意思の確認が難しくなってきている。そのため選択できるような問いかけや日々の話から類推をすることで、思いや意向を確認するよう努めている。これまで趣味として行ってきたことに再挑戦を勧めても、興味を示さなくなってきている人が多く、居間や居室でゆったりと過ごす利用者が多くなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報収集を行い来歴や生活環境、人間関係等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各種記録や申し送り、会議時に状況把握をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人のニーズを中心にご家族や職員の意見が反映出来るように努めている。	入居時には、計画作成担当者が地域包括支援センター等の事前資料や本人、家族からの聴き取りをもとにケアプランを作成している。以後、毎月の「ケア会議」で、職員の意見を確認しながら、短期3ヵ月、長期6ヵ月を基本に、必要なプランの見直しを行っている。協力医や訪問診療の医師からの意見、家族の希望も取り入れながら、一人ひとりの現状に合ったケアプランになるよう努めている。	

令和 7 年度

事業所名 ： グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録、申し送りの中から、検討が必要なものを抽出し会議で検討をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームとして出来る事を探していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スローショッピングへの参加や町内会の行事への検討、参加など行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が納得して医療を受けられるように支援している。	利用者8名中、7名が訪問診療を受けており、1名は入居前からの主治医に通院している。眼科、皮膚科等の特定診療の受診も含め、外来通院は家族の同行を基本としている。入れ歯の不具合、虫歯時には訪問歯科で受診している。訪問看護ステーションと契約し、週1回看護師から利用者の体調確認をしてもらい、利用者の健康管理への助言、指導を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	細やかな健康状態の報告を行い情報交換をしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 絆

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	新たな協力医療機関と提携を行い連携を深めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の段階から、重度化や看取りについて説明し定期的に本人・ご家族に意向を確認している。	重度化・終末期に対する指針に基づき、入居時に、医療が必要となる時以外は希望により看取りにも対応することを説明し、定期的に家族の意向を確認している。協力医、訪問診療医、看護師等との連携は円滑に行われており、今年は3月に看取りを実施し、過去6年間で5人を看取っている。身体的な重度化についても、身体状況の変化の中で、本人、家族と相談しながら、可能な限り対応することとしている。看取りの近い利用者もいるが、看取り経験の豊富な職員が多く、落ち着いて介護を続けている。	職員体制が十分とは言えない中で、負担の大きい重度化・看取りに対する職員の理解と意識の高さは大いに評価されます。今後とも、介護に関するターミナルケアのスキル向上に向け、研修等の一層の充実を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルの整備や訓練の実施、応急時の訓練も検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの整備や訓練の実施を行っている。地域との協力体制作りを深めていきたい。	火災想定の避難訓練を春秋2回実施しており、秋は夜間想定で行っている。オール電化で火力は使わないが、配線が老朽化しているとの消防署からの指摘があり、こまめな点検を行っている。木造だが、スプリンクラーを設置している。水害の場合は、指定避難場所への移動が難しいことから、2階への垂直避難をすることを基本にしている。本年度は、9月に非常用自家発電機を設置した。「リスクマネジメント委員会」で、より詳細な防災対策や地域との協力関係の確立について検討したいとしている。	民家が密集し、道路も入り組んでおり、災害時には近隣との協力が欠かせないことから、地域との協力体制を作り上げる必要があり、「運営推進会議」のテーマとして話し合うことを期待します。また、2階にも居室があり、階段が狭く、傾斜もきついことから、非常時の避難のため、様々な災害発生のケースを想定し、月1回程度は、「ミニ避難訓練」を実施することが望まれます。

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 絆

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	不適切な声掛け等がないように注意している。研修での反復学習や個々の意識を高めるように努めている。	管理者は、親しい関係から出てしまう雑な声がけや子ども扱いした声がけなど、職員の不用意な言葉遣いに対して、その都度注意し、自らの気付きを求めるとともに、人格を尊重した接遇やコミュニケーション能力の向上に向け、職場研修に力を入れている。また、他の利用者や職員が勝手に居室に入らないことや、トイレ使用時にはカーテンを閉めることを徹底するなど、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の状況を把握しながら、自己決定の機会を減らさないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活のペースを鑑みながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容も介助が必要な利用者が多いが、衣類の選択や本人らしくいられるように支援している。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

事業所名 ： グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の残された能力を活かしながら、参加を促している。	食事は、職員が作って提供することを事業所のポリシーにしており、職員が交代で行事食も含めた1ヵ月分の献立を作成し、勤務ローテーションに合わせた当番が調理している。献立は、栄養学を学んだ職員にチェックをしてもらっている。食材は、3日分ずつ業者に発注している。包丁を使い、下ごしらえを手伝ってくれる利用者もいる。一般家庭の台所の雰囲気が漂う厨房で準備された料理が続き間の食卓に並べられ、職員も一緒に食事を摂り、家庭的で温かい空気に満ちた時間になっている。利用者は、できる範囲で準備や後始末に参加している。	外注による配食サービスが増えている中で、手づくりの食事を提供している職員の努力に敬意を表します。しかしながら、最近は食事介助の必要な人が増えつつあり、職員からは、一緒に食事を摂ることが難しくなってきているという声が出始めているとのことであり、利用者と職員が一緒に食卓を囲んで同じ食事を楽しむことを継続して行けるよう、食事介助の支援体制の工夫などについて、職員間で話し合うことが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録を行い状態の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個々の状態に応じケアを提供している。必要時には歯科と連携し支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個別の排泄状況を把握、課題を検討し支援につなげている。	布パンツで自立している人が2名、リハビリパンツの人が2名、リハビリパンツにパット併用の人が3名となっており、介護度5の人はオムツを使用している。尿意のない人もおり、排泄パターンを把握し、声がけでトイレ誘導を行っている。自立に向けた支援に努めているが、介助の必要な人が増えつつある。夜間は、パット交換の2名以外は、自分で目を覚まし、見守り誘導によりトイレに向かう。転倒防止のため、離床センサーを設置している人が2階に3名、1階に2名いる。	

令和 7 年度

事業所名 ： グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促しながら、体操の機会を設けている。また個別的に主治医と連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	職員体制が厳しい面も多いが入浴機会の確保に努めている。	週2回、午前中の入浴を基本としている。家族風呂で狭く、職員1人で対応しており、利用者の介護度により入浴の組み合わせを調整するなど、入浴介助の体制を工夫しながら対応している。入浴を拒否する人はおらず、喜んで入浴を楽しんでおり、職員とゆっくりと触れ合える時間になっている。音楽を流したり、入浴剤を適宜使用したり、リラックスして入浴してもらうよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人のペースに合わせた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	マニュアルの整備や担当の設置を行い周知や変化時の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	行事や外出支援を行い楽しみが増えるようにしている。生活の中での役割や参加が出来るように配慮している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 絆

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物の機会や行事での外出支援に努めている。	1/3位の利用者が外出ができ、冬を除いて、近くのコンビニやドラックストアに買い物に出掛けたり、事業所近くの小川に沿った歩道を散歩している。また、週1回の「スローショッピング」に参加し、ボランティアの方々と交流し談笑する機会もある。車がないためタクシーを借り上げて、季節の行楽にも出掛けている。管理者は、職員体制を工夫し、少人数での外出の機会を増やしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、施設管理となるが、会計をお任せしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を送ったり、ご家族からの手紙をいただいたりしている。また、面会制限をとらずいつでも来所出来るような環境に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	窓からの眺めや飾り付けなどを通し、季節感を感じられるように配慮している。	台所、居間兼食堂、畳間がワンフロアで繋がり、居間には食事用の大き目のテーブルが2卓、畳間にはソファとテレビが配置されている。民家の暖かな雰囲気が残る共用空間で、利用者はゆったりと過ごしている。職員と一緒に、季節に合わせた居間の飾りつけを行い、窓からは、季節とともに変化する庭を眺めることができる。エアコンにより冷暖房を行っているが、冬場、足元が寒く感じられる時には、毛布を掛けて対応している。	

令和 7 年度

事業所名 ： グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	館内をある程度自由に行き来出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が安心、安全に過ごせるように努めている。	居室によって広さが異なり、押し入れがついている部屋もあり、エアコン、ベッド、洋服ダンスが備え付けになっている。利用者は、衣装ケースや使い慣れた小物、家族写真等を持ち込んでいるが、総じて簡素で落ち着いた部屋づくりを行っている。季節によって使わない衣類は事業所の倉庫に保管しているが、衣類の入れ替えに来る家族もいる。利用者の何人かは、職員と一緒にモップがけなど、自分の部屋の掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差や階段もある為、安全な導線確保や適切な声掛け誘導をしている。本人の状態にあわせながら、自立の状態を支援するように努めている。		